祝 開校50周年　50ème anniversaire, depuis1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

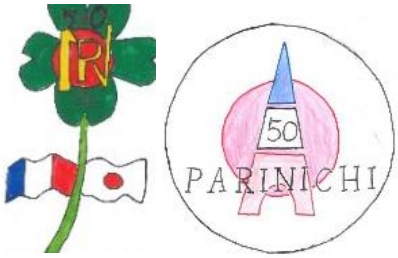
「あ・な・た」を大切にする 心のふるさとパリ日

校　訓

明るく
仲よく
たくましく

令和5年度 学校だより
第3号 6月1日発行

水無月（みなづき）6月到来 ～開校50周年記念運動会間近！～



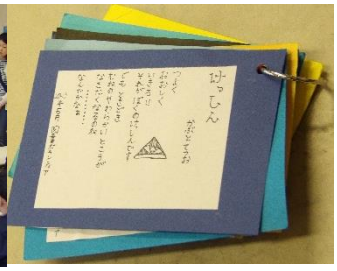
6月になりパリの街路樹も本校の木々もいよいよ鮮やかな緑が目にまぶしい季節になりました。旧暦の6月は「水無月（みなづき）」と呼ばれ、今の7月末の頃にあたり、暑さが増して水がなくなる時期を指したようです。日本の6月は梅雨（つゆ）の時期で、じめじめとしたうっとうしい日々が続きますが、ここフランスは真っ青な空が広がり、一年の中でもたいへんさわやかな季節です。

さて、6月の到来は「1学期の折り返し」を意味します。個人としても学年としても、これまでの成果と課題を明らかにして、後半に向けてスタートしましょう。6月10日には「開校50周年記念運動会」が開かれます。4月から約2か月という短い期間でしたが、その間に築いてきた力を最大限に発揮してほしいです。体調を万全にして、スローガン「燃えろ 9色の勇者達(チャレンジャー) ～50周年 新たなページをつくりだそう～」のとおり、運動会を通じてパリ日の新たな歴史を作れるといいですね。

小学部「1年生を迎える会」 5/5（金）

6年生がリーダーとなり、1年生を迎える会が行われました。ここ数年本校の伝統の行事として行われています。各学年からの出し物やプレゼント、1年生からのお礼の言葉や全員での校歌などを通じて、在校生は進級したことを実感し、特に6年生は最上級生の自覚が強まったようです。また、1年生はお兄さんお姉さんの存在を頼もしく感じたのではないでしょうか。短い時間の中に多くの成果が詰まった会となりました。

図書ボランティアによる「読み聞かせ」開始 5/9日（火）



今年も図書ボランティアの皆さんによる「読み聞かせ」が始まりました。朝の8時30分、小学部1年生から3年生までの教室に、絵本を抱えたお母さんたちが訪問して読み聞かせを行います。また、素敵な手作りカードを全員にプレゼントしてくれます。しっかりと聞き入る姿が印象的です。「読み聞かせ」には言語発達を促進したり言葉の数を増やしたり、聞く力も向上させるようです。 ほかにも、読書量の増加、学力の向上、自律神経の安定化などにも効果があるようです。パリ日の「豊かな心」を養うため、これからもよろしくお願いします。

中学部　宿泊学習　5/22（月）～26（金）　ブルターニュ方面

～俳句・短歌・川柳・詩による宿泊学習作品コンクールも実施中～

【主な日程】

1日目　レンヌ市内観光（旧市街、ブルターニュ高等法院）
2日目　サンマロ市内観光、ディナン市内観光
3日目　ヴァンヌ市内観光、カルナック巨石群見学
4日目　ゲランド塩田見学、サンナゼール造船所見学
5日目　ナント市内見学（マシンドリーユ、ブルターニュ大公城）

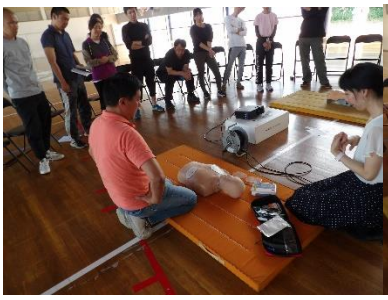
好天に恵まれ5日間の日程を無事終了しました。学生の街レンヌに4連泊して、ガイドの浜口さんの丁寧な案内でブルターニュ各地を巡りました。中学部担任全員が新赴任者であり、準備期間が短く苦心した面もありましたが、実行委員長のMTさんを中心に、それぞれの係が自覚を持った行動を展開しました。最後の夕食の際、食堂でお世話になったスタッフの方へお礼を述べてコースターをプレゼントし、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。昨年度の宿泊学習でもそうでしたが、第三者の方にパリ日生の行動を褒められるということを、学校としてもたいへん誇りに感じています。

たくさんの成果をお土産に学校生活が再開しましたが、個々の活動では課題も明らかになりました。今回の宿泊学習をきっかけに、さらに前進する中学部であってほしいと思います。

なお、旅行期間中に校長から「見たこと、感じたこと」などを、短歌・俳句・川柳・詩で表現しよう、という課題が出されています。後ほど作品集として配付します。保護者の皆様もぜひご覧ください。

“もしも”に備えて　二つの教員研修会　5/10・31（水）

～アレルギー対応研修＆救急救命研修～



5月10日には亀山養護教諭の指導でアレルギー対応研修を実施しました。授業中に体調が悪くなった子供が出たケースを想定して、生徒と教員の連係プレーやエピペンの処方の仕方を実際に体験しました。

また、31日には、フランスでスキューバーダイビングのインストラクターをしている石井様をお招きし、心肺蘇生法について講義を受けた後、人形を使って実際に心臓マッサージやAEDの使用法について研修しました。その際、心肺蘇生のためのビデオ映像も視聴しました。これからの時期、運動会や小学部5、6年生の体験学習が実施されます。学校では「もしも」の時が来ないことが一番ですが、万一の際、今回の研修が役立つことを願います。

児童会・生徒会 役員任命式 5/10（水）・31（水）

前期の児童会、生徒会の役員任命式がありました。前期は以下の児童生徒がリーダーとなってパリ日をリードしていきます。本校は小・中一貫の学校で、お兄さんお姉さんたちの面倒見の良い学校としての伝統があります。児童会、生徒会とも、リーダーの活躍はもちろん、それをフォローする多くの皆さんの協力があってはじめて素晴らしいパリ日の実現につながります。50 周年記念の年にふさわしく、充実した活動をめざしましょう。

《児童会役員》

○会長：KK　○副会長：MS、KA　○書記：SY、OT

《生徒会役員》

○会長：KK　○副会長：SM、HW　○書記：IR、HM

“特集” 祝開校50周年 ～温故知新・パリ日の「宝」～（第2部）

昨年度に続きこのコーナーでは、開校から50年を経たパリ日の歴史の中から、「宝」と呼べるものを発掘して紹介していきます。パリ日の新たなページに向けて少しでもお役に立てればと思います。

【第1回】卒業生の活躍から 「轟 修杜さん」

ホールの壁面に右の額が飾ってあるのをご存知でしょうか。今から約10年前に本校を卒業した轟修杜さんの作品です。修杜さんは幼少からの障害のため、小学校4年生まで筆圧が弱くて文字が書けませんでした。ところが、「絵かき歌」を習ってから徐々に書けるようになりました。そして、飾られているような独自の世界を表現するアーティストになっていきました。この4月、パリの日本文化会館で個展が開かれました。見学に訪れた際に修杜さんご本人とご両親が迎えてくださいました。会場にはたくさんの作品が展示されていましたが、パリ日の授業で作った作品も飾られていました。今年の8月1日～6日に京都でも個展が開かれるそうです。また、修杜さんのことが、昨年の7月にNHKの番組「no art, no life」で放映されました。興味のある方はネットで検索してみてください。この 50 年間、多くの卒業生を送り出したパリ日ですが、修杜さんのような独自の世界を表現する芸術家の存在もまたパリ日の「宝」と言えるのではないでしょうか。

※以下、NHKによる紹介から　　初回放送日: 2022 年 7 月 15 日

今回の撮影はお父さん（轟修男）。フランスの自宅で息子（修杜）の表現と家族の日常を記録したプライベートフィルム的な特別編。いつの時代もアートは日常から生まれるのだ！既存の美術や流行・教育などに左右されない、その独創的な美術作品は世界から注目を集めている。誰のためでもなく表現し続ける人たちが放つ、圧倒的な凄（すご）み。今回はパリ郊外に住む轟修杜（24）。創作の現場に分け入り、その唯一無二の表現に迫る。